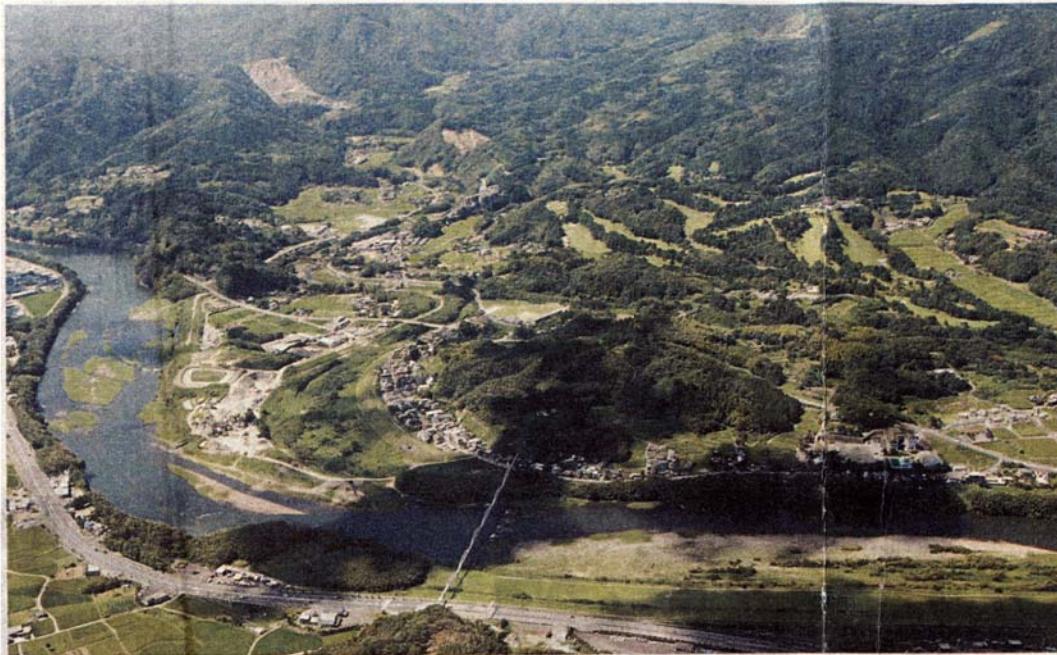


## 「ハ工釣り大会」地域に活気



### 大野川沿いの丘陵地帯

竹中地区は一級河川・大野川沿いに広がる。川にはハエ(オイカワ)が生息しており、その釣果を競う大会は地域の目玉行事として定着した。

大野川左岸のゴルフ場と

川に挟まれた小高い丘(写真中央)。ここには「鏡城」があり、島津氏と大友氏が対峙(たいじ)した「豊薩合戦」(1586~87年)で、島津氏が大友氏の要衝・鶴賀城を攻めた際、豊臣秀吉が大友氏に送った援軍が着陣した地と伝えられている。

今、その遺構はない。この丘の南側に住宅地が広がる。中心部には商店も多かったが、徐々に減り、一帯では少子高齢化が進んでいる。

川沿いの県道からの眺めは良く、ウォーキングを楽しむ人の姿が見られる。

竹笛や水鉄砲を作る。この後のそうめん流しも好評といふ。

ハロー  
空から

大野川で開かれる「竹中ハ工釣り大会」は、三十数年間続く竹中地区の恒例イベントだ。主催するのは竹中ハ工釣り同好会。ここ数年は大会以外にも子供たちを対象にした催しを企画し、人気を集めている。ハ工釣り大会は、過疎化が

進む中、活性化につなげよう。冬には、シイタケの菌をクヌギの木に埋め込む体験教室も開いている。

佐藤導則会長(70)は「子どもたちが喜ぶ姿を見るのが楽しみ。イベントを通して地域に愛着を持ち、将来、ここに残つてもらえたなら」と話して

曹洞宗の寺院・勝光寺の南慧昭住職(69)は、オリジナルソングに乗せて思いやりや絆の大切さを説く「出前」には東日本大震災で被災した



歌声を披露する南住職

## 「出前歌説法」が人気

こうせつさん兄

宮城、岩手県を訪れ、避難所

で被災者に語りかけた。

4人きょうだいの長男。幼

い頃から音楽が好きだった。

「一定のリズムで刻まれる木

魚や、お経を聞いて育ったか

ら素養が培われたのかも知れ

ない」という。

大学では男声合唱団に入っ

た。寺を繼ぐことを望まれて

いたが、「決まつたレールの

上を歩きたくない」と、卒業

後は東京で食品会社に就職。

つた。

その後も音楽への情熱は冷めず、混声合唱団でタクトを振

1994年、副住職だった